

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ ハ長調 Kv 296

Wolfgang Amadeus Mozart (1756 -1791): Sonata for Violin and Piano C major Kv 296

エーリッヒ・ヴォルフガング・コルンゴールド：“あなた 無しで” オペレッタ『沈黙のセレナーデ』より

Erich Wolfgang Korngold (1897 -1957): "Ohne Dich" from the operetta "Die stumme Serenade"

カミーユ・サン＝サーンス：夕暮れのヴァイオリン (ソプラノ、ピアノとヴァイオリン)

Camille Saint-Saëns (1835 -1921): Violons dans le soir (voice, piano and violin)

ヨハネス・ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第3番 二短調 作品108

Johannes Brahms (1833 -1897): Sonata for Violin and Piano No.3 D minor Op.108

他 (曲目は変更になることがあります)



大津純子 (おおつ じゅんこ) ヴァイオリニスト | Junko Ohtsu, violinist

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業。同音楽院在学中にジュネス・ミュージカル・インターナショナル 及び カーネギー・ホール共催のもとニューヨーク・リサイタル・デビュー。ニューヨーク・タイムズ紙上“卓越した演奏“将来を大きく期待される演奏家”と絶賛される。その後、アメリカを拠点に演奏活動を開始。セント・ルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他と協演。リサイタル・プログラム《The Artistry of Junko Ohtsu》はパブリックTVネットワークにて全米40都市で放映され、ラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリア、ベトナム、フィリピン、中南米諸国に於いて公演し賞賛を博す。『アメリカ』、『ヴァイオリンの詩〜ベル・エポック』、スペイン音楽選集『マラゲーニャ』(各・日本フォンテック)、『Prelude to a Kiss』(BAJ Records) などCD5枚をリリース。『マラゲーニャ』収録曲のE.グラナドス作曲ヴァイオリン・ソナタは、“素晴らしい録音” (音楽評論家・諸石幸生氏) と評価高い本邦初録音となる。アメリカ女流音楽家と構成するEcco Trio (ピアノ・トリオ) によるアルバム『アメリカ』はレコード芸術誌「室内楽準推薦盤」に選出された。2011年2月、東北地方民謡集を取めたDVD『あいの風 ~ Wind from Northeast』をプロデュース・リリース (その収益全額は東日本大震災復興支援のために寄付)。その意想外の企画とヴァイオリンによる津軽・南部地方民謡 (編曲) 演奏の新鮮なアプローチは称賛的となる。1999年より国立情報学研究所主催《軽井沢土曜懇話会》(情報工学に於ける権威、故・猪瀬博氏開設) に招待を受けレクチャーコンサートを毎年継続。2005年より東京・代官山ヒルサイドプラザにて年2回《心のコンサート・シリーズ》を開催し現在に至る。2012年“音楽の楽しみ”を届ける出張演奏会《純子のミニ・キャラバン》を開始し日本各地の幼稚園・小学校・中学校を訪問。2023年、西武文理大学のホスピタリティ大使・特命教授に就任。執筆・講演の分野にも活動の場を広げている。

公式サイト <https://www.junko002.com/>



鷺宮美幸 ピアニスト | Miyuki Washimiya, pianist

桐朋女子高等学校を経て、桐朋学園大学ピアノ科卒業。在学中パリに留学。第56回日本音楽コンクールを皮切りに、UFAM国際コンクールなど、多くのコンクールに入賞。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、イ・ムジチ合奏団のメンバー、ミッシェル・マイスキーなど国内外の著名なソリストたちと度々共演。「ピアノ&ピアニスト」(音楽之友社、2018年1月発行)の「日本の名ピアニストたち」にも選ばれた。NHK・BS「びあのピア」、NHK・FM「名曲リサイタル」に度々出演している。これまでにピアノを寺西昭子、村手静子、T.パラスキヴェスコ、高木茉莉、松浪佳子の各氏に、室内楽をJ.M.ダマーズ、三善晃、H.ピュイグ＝ロジェ、C.イヴァルディの各氏に、チェンバロを遠藤藤陽子氏に師事。現在、ソリスト、室内楽奏者、桐朋学園大学嘱託演奏員、オメガ・ピアノトリオのメンバーとして活躍。2022年5月にリリースしたCD「鷺宮美幸ピアノ・リサイタル」(Pf.鷺宮美幸/ALCD9235/コジマ録音)は、雑誌「音楽現代」で特選盤に選出された。またこれまでに数多くのCDをリリースし、いずれも高い評価を得ている。音楽の構造を的確に把握した上での繊細かつ大胆な表現は高く評価されている。



吉川 具仁子 ソプラノ | Kuniko Kikkawa, Soprano

東京芸術大学卒業、同大学院修了。第6回日伊声楽コンクールに優勝し、同年イタリア政府給費留学生として渡伊。ミラノ・スカラ座附属オペラ研修所ならびにローマ・サンタ・チェチーリア・アカデミーを修了。ロニーゴ・テアトロ・コムナーレ国際声楽コンクール、メラーノ・デビュー国際声楽コンクール他複数のコンクールに入賞の後、トーティ・ダル・モンテ国際声楽コンクールに入賞し、トレヴィーゾ・テアトロ・コムナーレの《ドン・ジョヴァンニ》でオペラ・デビューを飾る。その後、北イタリアの主立った歌劇場に次々と出演し、現地の新聞の批評でも高く評価された。宗教曲の分野では、ローマ・サンタ・チェチーリア大ホールで同オーケストラと共演、また、バーリのペトルツェッリ歌劇場においても歌劇場管弦楽団コンサートにソリストとして出演した。テレビ・ラジオでは、旧東ドイツ国営テレビ、RAI(イタリア国営放送)や民間放送に数多く出演。リサイタル・コンサート分野でもローマ、ミラノを初め、イタリア各地において幅広いレパートリーで活躍し、その深く豊かな音楽性溢れる歌唱で多くの聴衆を魅了してきた。日本でも藤原歌劇団のオペラ公演、NHK-FM放送、日本各地でのコンサートに多数出演し、好評を得てきた。現在もなお、活発な演奏活動を続けている。古典の世界、「トスティ歌曲集」、「イタリア近代歌曲集〜やさしい心〜」、「イタリア近代歌曲集II〜告白〜」の4枚のCDが発売中である(Amazonで購入可能)。また、現在、日伊声楽コンクールの審査員、並びに、日伊音楽協会の理事を務めている。教育の分野では、二期会イタリア歌曲研究会の講師を務めるなど、30余年にわたる在伊中に師事した超一流のアーティストや指導者の元での深い研鑽に基づいた歌唱を後進に伝えることに心血を注ぐとともに、長年のキャリアを支えた無理のない自然な発声法を歌うことを楽しむ方々にも広く伝え、歌う喜びを共に味わいたいと願っている。

■コンサートお申込み書 (FAX送信先:03-3486-8740)

お名前

ご連絡先

ご住所

名

会場

